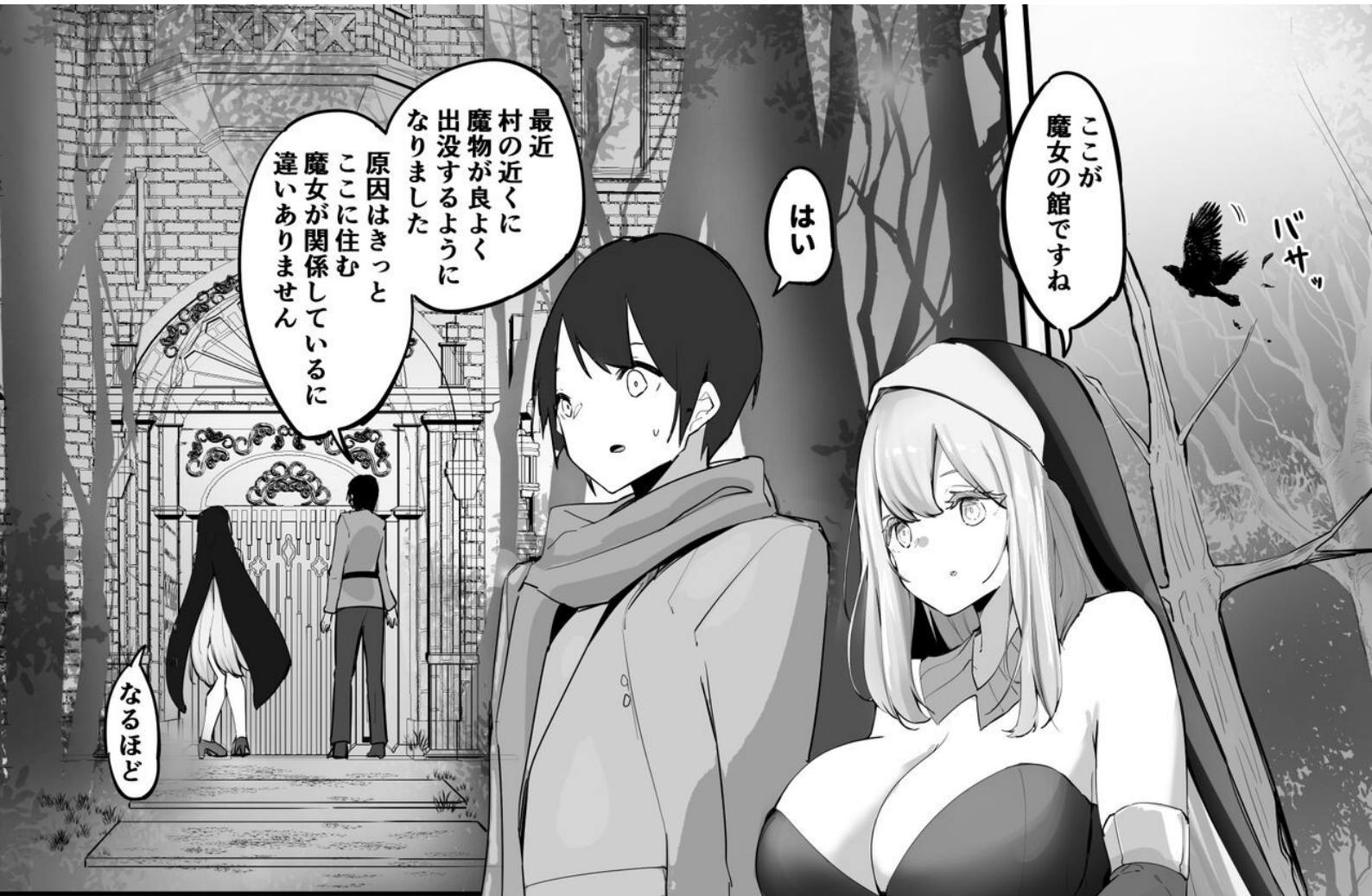




ここが
魔女の館ですね

はい

最近
村の近くに
魔物が良よく
出没するよう
になりました

原因はきっと
ここに住む
魔女が関係して
いるに
違いありません

なるほど



入口からすでに
まがまがしい
気を感じます

魔女は
この中です



それで
ここまで
来たってワケねえ

でも残念
魔物の騒動の
ことなんて
私全然知らないの

それより
アナタ
面白い
趣味してるのね

ほら
あなたの
望み通り
そのボウヤの
体を小さくして
あげたわよ

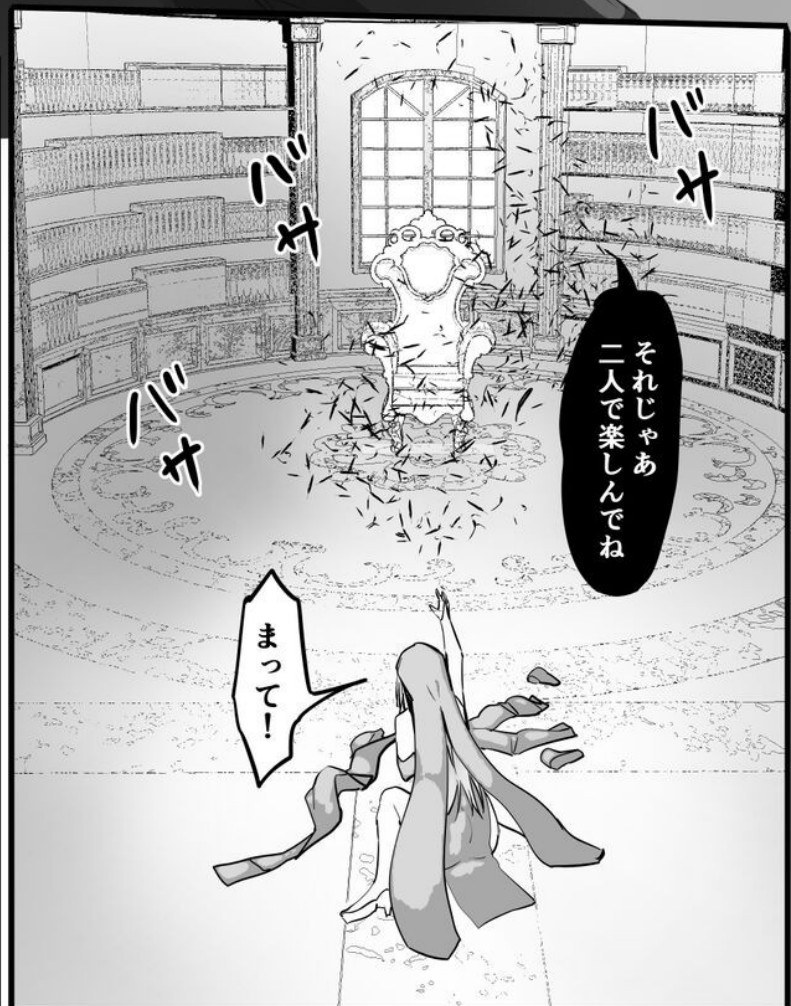
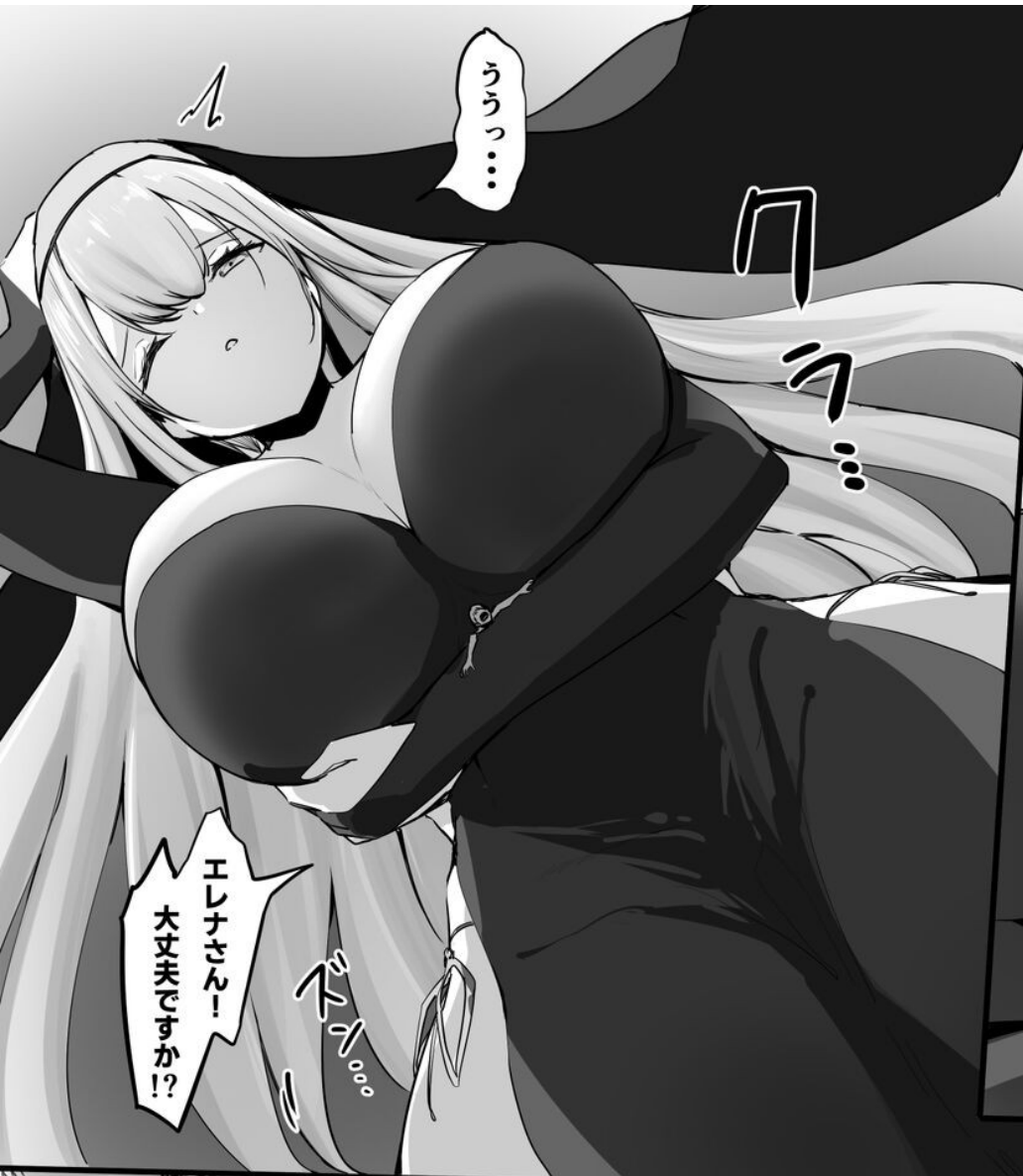
ユーシヤさんの
体が
小さく!?

え!?
え!?
うわぁ!?

しゅる
しゅる

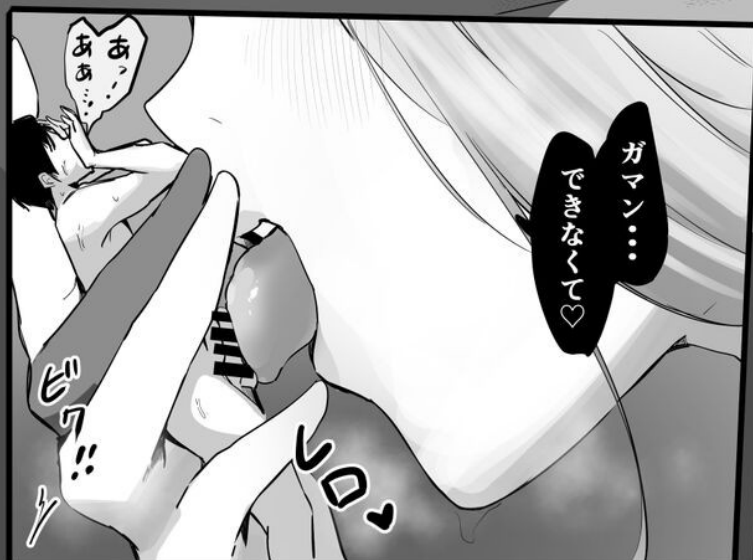










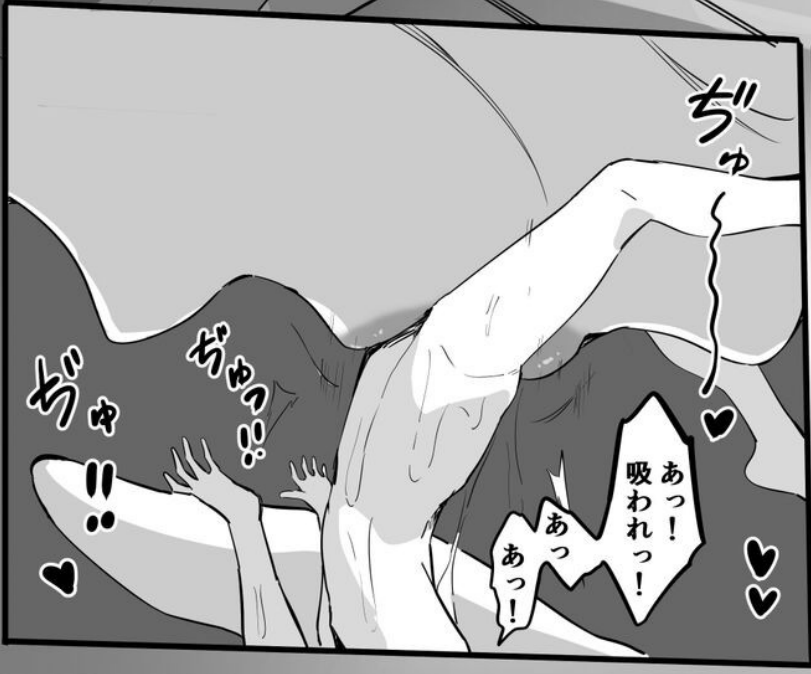






エレナさん…
一体どうして
しまったんだ!?

こんな
淫らに…!







エレナさんのおま○こに……

はぁ

はぁ
レレレレ

はぁ

レレレ

飲み込まれる!!!







そんな!

もう意識が無くなった!?

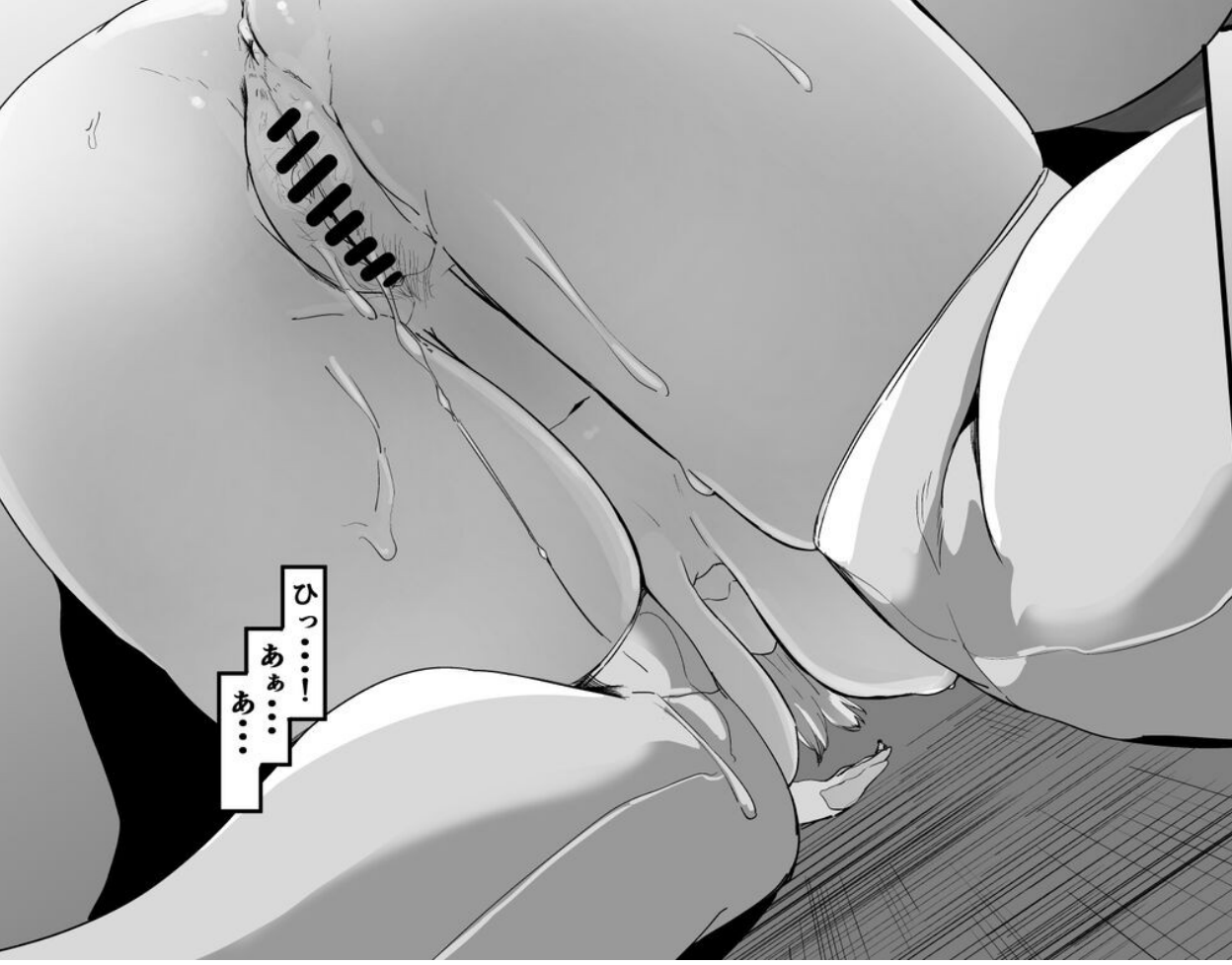


あんなに全力で走ったのに

簡単に追いつかれる!



私のかわいい
コーシャさん♡



ひっ...!

ああ...

あ...



ダッ
ア



私を満たす
オモチャに
なっ♡

幸せ…

ずっと
こうして
いたかったの♡



泣いた
顔もかわいい♡



入れられてく…
指先二本で
こんな簡単に
僕の
体全部!



顔より
大きい
クリ○リス…!!



こんなに
大きくて
グニグニした
ものの中に入るなんて!







エレナさん…？

カトレア様
ユーシヤさんが
目を覚ましました



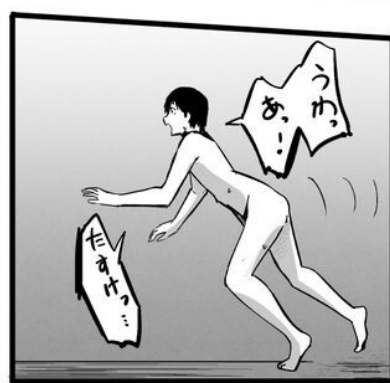
どうして魔女と
話しているんだろう？

そうね



え？







ズ

わあ!♡
ンク♡

そんな
どうして...



一瞬で豆粒よりも
小さく...

ほ♡

これ
すっごく
カワイイですね!

♡♡

ズ

ズ
ズ

!!!



もはや私が歩く歩幅の
大きさどころか...

足のサイズ数十センチ
移動するのですら

ユーシャさんに
とっては
体力を使ってしまう
距離なのですね♡

※身長5mm

そこに居ると
私の靴でうっかり
すり潰してしまいますよ？

ねえ...
逃げてみてください

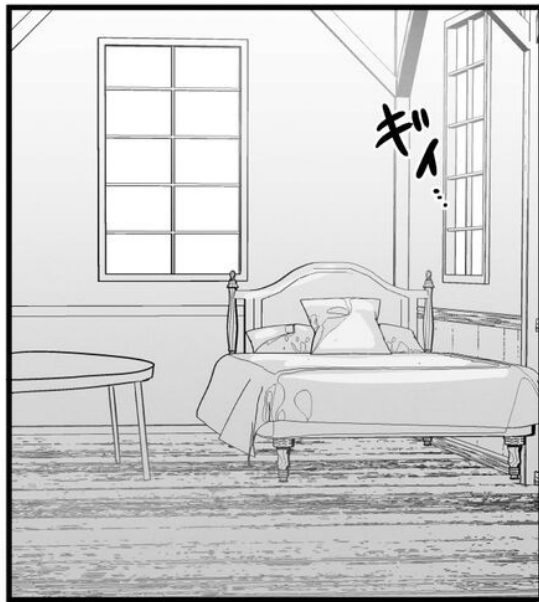
かわいらし
すぎますっ！♡

そんなちっちゃな足で
ヨチヨチと

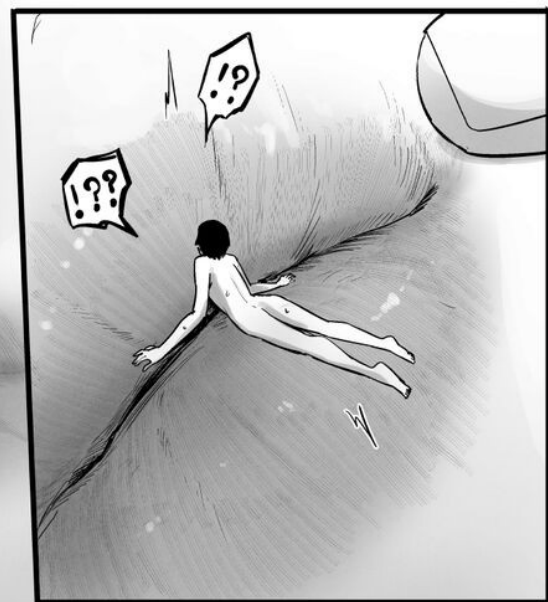
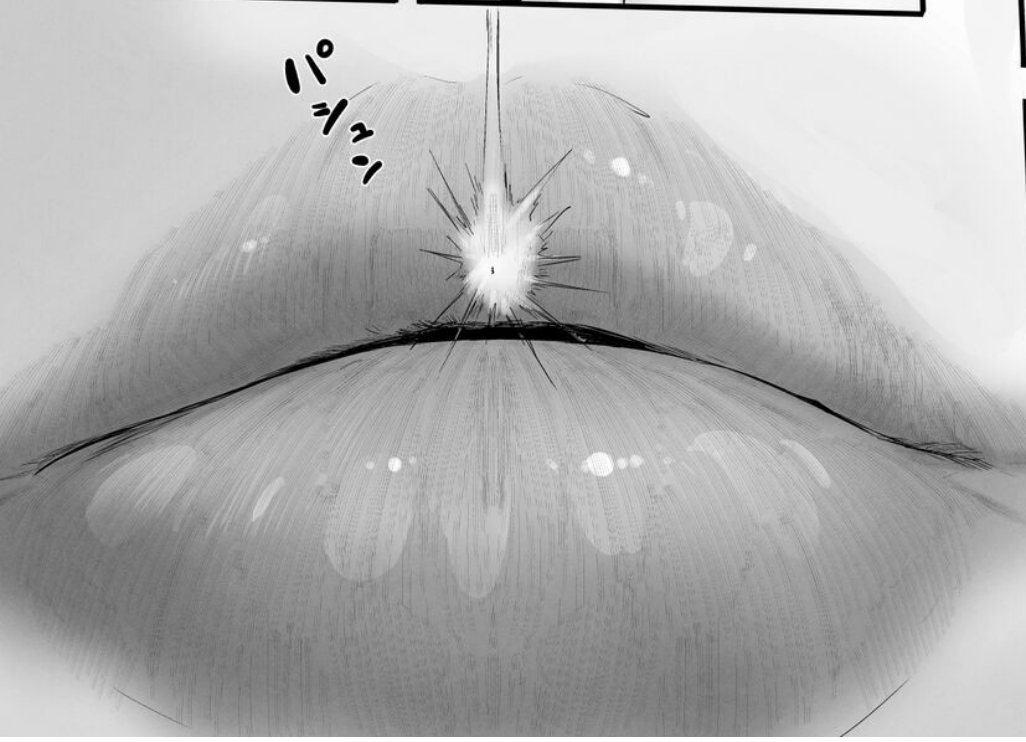
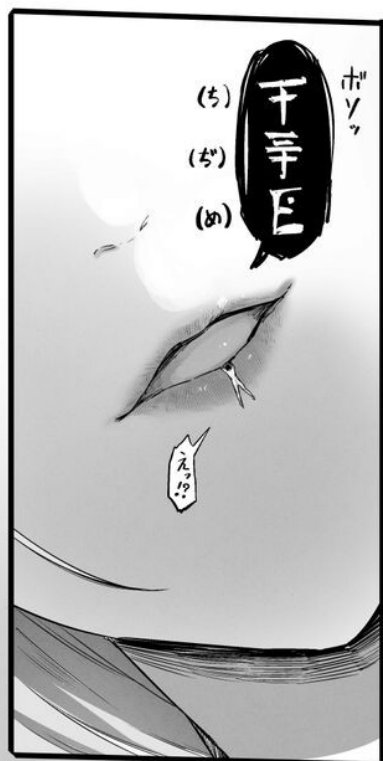
でも
足は凄く早く
動いてるのに
全然進めませんね♡

じゃあ
手伝って
あげます...
よ♡









ズ

僕の体
また小さくされた!?



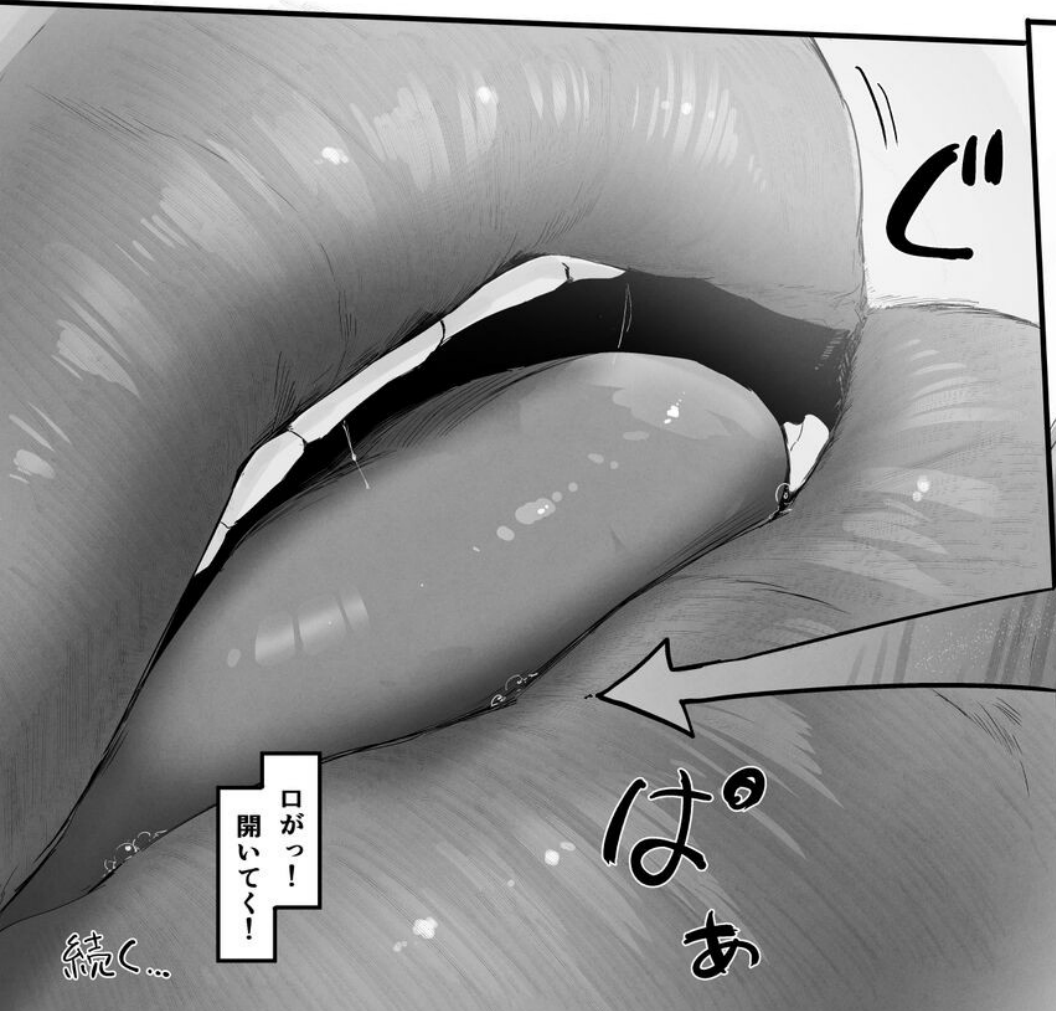
息で
ユーシャさんを
吹き飛ばさない
ように...

喋るのは
ガマン♡



ここは...?
この山は...

ズ



じ



さっきまで居た
くちびるの上!?

ドクン...
ドクン

ひっ!!

口がっ!
開いてく!

はあ

続く...

※ 0.3 mm





私はただ
口を開けている
だけですー？



うん
うん



そう…
人々の声が神に
届かないのと同じ
ように

私には
もう声すら聞こえないの
ですよ♡
小人さん♡

ズ

あの時
僕はどうして

エレナさんを
説得しようと思
ったんだろう…

人を一瞬でミジンコの
ように小さくしてしまう
彼女に理解してもらおう
なんて…

そんなの絶対
不可能なのに!!!

ズ

